

## 令和5年度 南区地域福祉アクションプラン 分野別計画 進行管理表

- 児童・子育て支援・・・1～2
- 障がい者福祉・・・・・・・・・・3
- 高齢者福祉・介護支援・4～5
- 地域づくり・・・・・・・・・・6～7

以下の基準により評価しております。

評 価 指 標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

分野別計画 子ども・子育て支援

基本目標 安心して産み子育てできるまち

〔評価の指標〕 A. 目標を達成（概ね90%以上） B. ほぼ達成（概ね75%以上） C. 一部達成（概ね50%以上） D. ほとんど実施せず

目標	具体的な取り組み・事業	概要	担当部署	令和4年度(実績)	令和5年度計画	令和5年度実績	評価	コメント・課題等	備考
<b>(1) 妊娠期からの切れ目ない支援</b>									
	多様な手法による子育て情報の発信	各種健診や、育児相談会、訪問等の機会を利用し、子育てに関する情報を発信する。	健康福祉課	股関節検診 6回 1歳歯科健診 8回 1歳6か月児健診、3歳児健診各12回 育児相談会 12回 新生児訪問 全戸	股関節検診 6回 1歳歯科健診 8回 1歳6か月児健診 10回 3歳児健診 11回 育児相談会 12回 新生児訪問 全戸	股関節検診 6回 1歳歯科健診 8回 1歳6か月児健診 10回 3歳児健診 11回 育児相談会 12回 新生児訪問 全戸	A	健診や相談会など、様々な機会を捉え子育てに関する情報発信を行った。	
	子育て中の保護者同士の交流促進、ネットワークづくり	子育て支援リーダーによる子育て広場や、子育て支援プログラムを開催し、保護者同士が交流できる場を提供する。	健康福祉課	子育て広場 54回 延べ675人 BP(親子の絆づくり) 6回 40人 BP2(きょうだいがうまれた) 2回12人 NP(子育て支援) 1回4人 屋外交流会(いもほり) 1回 10家族	子育て広場 50回 延べ625人 BP(親子の絆づくり) 4回32人 BP2(きょうだいがうまれた) 2回16人 NP(子育て支援) 1回12人 屋外交流会 1回10家族	子育て広場 58回 延べ780人 BP(親子の絆づくり) 4回30人 BP2(きょうだいがうまれた) 2回14人 NP(子育て支援) 1回 8人 屋外交流会 0回	A	子育て支援リーダーによる子育て広場を各地域で実施するとともに、BP1等の子育て支援講座を実施し、保護者同士の交流の場を提供した。屋外交流会は、10月に計画し、12家族の申込があったが、雨天のため中止となった。	
	訪問・相談事業の強化	子育てほっとステーションのマタニティナビゲーター等による相談対応や保健師や助産師等が訪問により支援を行う。	健康福祉課	マタニティナビゲーター等による産婦への全数連絡 保健師、助産師等による全戸訪問	マタニティナビゲーター等による産婦への全数連絡 保健師、助産師等による全戸訪問	マタニティナビゲーター等による産婦への全数連絡 保健師、助産師等による全戸訪問	A	出産・育児の不安や困りごとに対し、電話や訪問を行い支援した。	
	支援の必要な妊産婦への支援	母子手帳交付時からの相談対応、状況把握により支援の必要な人へ妊娠期から子育てまで継続的に支援を行う。	健康福祉課	母子ケース検討会 12回 要支援者への全数連絡	母子ケース検討会 12回 要支援者への全数連絡	母子ケース検討会 12回 要支援者への全数連絡	A	母子保健担当者として地区担当保健師、児童福祉係担当者で毎月1回検討会を実施し、情報共有や役割分担をしながら継続支援を行った。	
<b>(2) 地域で支えるゆとりある子育てへの支援</b>									
	子育て中の保護者同士の交流促進、ネットワークづくり(再掲)	子育て支援リーダーによる子育て広場や、子育て支援プログラムを開催し、保護者同士が交流できる場を提供する。	健康福祉課	子育て広場 54回 延べ675人 BP(親子の絆づくり) 6回 40人 BP2(きょうだいがうまれた) 2回12人 NP(子育て支援) 1回4人 屋外交流会(いもほり) 1回 10家族	子育て広場 50回 延べ625人 BP(親子の絆づくり) 4回32人 BP2(きょうだいがうまれた) 2回16人 NP(子育て支援) 1回12人 屋外交流会 1回10家族	子育て広場 58回 延べ780人 BP(親子の絆づくり) 4回30人 BP2(きょうだいがうまれた) 2回14人 NP(子育て支援) 1回 8人 屋外交流会 0回	A	子育て支援リーダーによる子育て広場を各地域で実施するとともに、BP1等の子育て支援講座を実施し、保護者同士の交流の場を提供した。屋外交流会は、10月に計画し、12家族の申込があったが、雨天のため中止となった。	
	地域住民全体で子どもを育む意識の向上	子育て支援リーダーによる各地域での自主的な子育て広場の開催や、子育て支援リーダー活動報告会での地域住民との意見交換により情報共有を図る。	健康福祉課	子育て広場 54回 支援リーダー活動報告会 1回	子育て広場 50回 支援リーダー活動報告会 1回	子育て広場 58回 支援リーダー活動報告会 1回	A	子育て支援リーダー活動報告会を令和5年7月3日に開催し、地域コミュニティ協議会長・主任児童委員・子育て支援センター長等に参加していただき、南区の子育て支援について意見交換・情報共有を行った。	
	子育て中の親子の居場所の確保	子育て支援リーダーによる子育て広場を開催し、子育て中の親子が気軽に利用できる居場所を提供する。	健康福祉課	子育て広場 54回 延べ675人	子育て広場 50回 延べ625人	子育て広場 58回 延べ780人	A	各地域で子育て支援リーダーによる子育て広場を開催し、子育て中の親子が気軽に利用できる居場所を提供した。	

分野別計画 子ども・子育て支援

基本目標 安心して産み子育てできるまち

〔評価の指標〕 A. 目標を達成（概ね90%以上） B. ほぼ達成（概ね75%以上） C. 一部達成（概ね50%以上） D. ほとんど実施せず

目標	具体的な取り組み・事業	概要	担当部署	令和4年度(実績)	令和5年度計画	令和5年度実績	評価	コメント・課題等	備考
	子育て支援リーダー、ボランティアの育成と活動の支援	子育て支援リーダーを育成支援することにより活動の充実を図る。	健康福祉課	子育て支援リーダー 20人 スキルアップ研修 8回	子育て支援リーダー 20人 スキルアップ研修 8回	子育て支援リーダー 21人 スキルアップ研修 9回	A	子育て支援リーダーの資質向上のため、スキルアップ研修を実施した。秋葉区の子育てサポーターとの合同研修を行ない、それぞれの活動についての意見交換やグループワークを通してさらなる活動の充実を図った。	
	ファミリー・サポート・センターによる子育て世帯の支援	地域社会で子育てを支え合うファミリー・サポート・センターについての周知を行う。	社会福祉協議会	広報誌掲載 1回 関係機関等への周知 1回	広報誌掲載 1回 関係機関等への周知 1回	広報誌掲載 1回 関係機関への周知 1回	A	令和5年度、南区の依頼会員67名 提供会員23名（うち、両方会員3名） 主な活動：ひとり親世帯の保育園幼稚園の送迎・預かり、双子世帯の支援 …12月末活動累計：14件	
<b>(3) 子育て支援施設の充実</b>									
	子育て中の親子の居場所の確保（再掲）	子育て支援センター及び児童センター・児童館を運営し、子育て中の親子が気軽に利用できる居場所を提供する。	健康福祉課	白根つくし園 5,241人 児童館・児童センター 89,610人	白根つくし園利用者数 前年度以上 児童館・児童センター利用者数 前年度以上	白根つくし園利用者数 5,300人 児童館・児童センター利用者数 102,672人	A	子育て支援センター4施設および児童館・児童センター4施設を運営し、子育て中の親子が気軽に利用できる居場所を提供した。	
	児童館・地域子育て支援センターによる子育てネットワークの構築	各児童館による運営協議会や子育て支援センター会議を通じ、情報共有・意見交換を行い、関係機関のネットワークを構築・強化する。	健康福祉課	児童館運営協議会 各館2回 支援センター会議 3回	児童館運営協議会 各館2回 支援センター会議 3回	児童館運営協議会 各館2回 支援センター会議 3回	A	各児童館による運営協議会や子育て支援センター会議を開催して情報共有・意見交換を行い、関係機関のネットワークの強化を図った。	

分野別計画 障がい者・生活困窮者支援

基本目標 障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち

〔評価の指標〕 A. 目標を達成（概ね90%以上） B. ほぼ達成（概ね75%以上） C. 一部達成（概ね50%以上） D. ほとんど実施せず

目標	具体的な取り組み・事業	概要	担当部署	令和4年度(実績)	令和5年度計画	令和5年度実績	評価	コメント・課題等	備考
<b>(1) 福祉サービス利用の相談体制充実</b>									
	基幹相談支援センターの充実	関係する専門機関が情報を共有し、相談する人の立場に立った相談や情報提供ができるよう相談支援体制を推進していく。	健康福祉課	エリア担当者会議 2回 相談支援事業所連絡会 2回	エリア担当者会議 2回 相談支援事業所連絡会 2回	エリア担当者会議 0回 相談支援事業所連絡会 2回	C	エリア担当者会議は、管内3区（南、江南、秋葉区）の担当者の交替がなかったため、基幹センターの紹介や3区の平準化を図る必要がなく、開催がなかった。相談支援事業所連絡会は2回開催し、障がい福祉制度の説明や研修を行った。	
	多様な手法による障がい福祉制度の周知	機関紙や研修会などを利用し相談窓口の周知を図る。	健康福祉課	区だより掲載 1回 社協だより掲載 1回 関係機関合同研修会で周知	区だより掲載 1回 社協だより掲載 1回 関係機関合同研修会で周知	区だより掲載 1回 社協だより掲載 1回 関係機関合同研修会で周知	A	関係機関合同研修会は「家庭と学校と福祉の連携の推進」をテーマに開催し、学校や福祉事業所など関係者が参加。前半の講演会では障がい福祉制度の説明を行い、後半のグループワークでは連携推進に向けた意見交換を行った。	
<b>(2) 障がいのある人と地域との交流</b>									
	民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会や地域コミュニティ協議会及びその他の団体との連携強化	地域で行われているまつり等のイベントや福祉活動の取り組みの際に障がいのある人も積極的に参加できるように、団体と連携を図る。	社会福祉協議会	7地区で実施	7地区で実施	7地区で実施	A	地区社会福祉協議会の事業の中で交流の機会や訪問する活動を通して障がい者と顔を合わせる機会をつくり、地域住民と障がい当事者の顔の見える関係をつくることができた	
	障がいの理解のための講座、研修会の開催	子どもたちや地域の人たちに障がいに対する理解を深めるために講座や研修会を開催する。	社会福祉協議会	地区社協 1回 ボランティア講座 1回 小中高での福祉学習25回	地区社協 1回 小中高での福祉学習20回	地区社協 1回 小中校での福祉学習26回 公共機関1回	A		
<b>(3) 自立支援体制の充実</b>									
	南区障がい者地域自立支援協議会の運営	協議会を開催し、地域での課題整理、解決に向けた検討を行う。	健康福祉課	南区障がい者地域自立支援協議会 4回	南区障がい者地域自立支援協議会 4回	南区障がい者地域自立支援協議会 4回	A	協議会の部会である児童ワーキングでは、研修会を通じて関係機関の連携の推進を図った。また拠点等ワーキングでは、区内の障がい関連施設（カフェやこども食堂など）を地域資源と考え、現状の整理と今後の発信に向けた協議を行った。	
	南区地域福祉ネットワーク会議の運営	関係機関と情報を共有し、新たな社会資源の利用について検討する。	社会福祉協議会	会議 3回	会議 2回	会議 2回開催	A	地域住民と福祉関係事業所のつながりづくりをテーマに開催、第1回は地域と事業所で助け合い困りごとを解決するためのマッチング会議、第2回はマッチングの報告会と県外の福祉法人から先進的な実践を聞く機会とした	
	民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会や地域コミュニティ協議会及びその他の団体との連携強化（再掲）	研修会を開催し課題解決に向け情報の共有を図る。	健康福祉課	関係機関合同研修会の開催	関係機関合同研修会の開催	関係機関合同研修会の開催	A	関係機関合同研修会は学校や園、放課後等デイサービス事業所などの事業所を対象として開催した。国が定めた連携ツール（トライアングル連携シート）について、周知にとどまらず、実際の活用や普及につなげていくことが課題である。	
	生活困窮者の就労支援	ハローワーク新津と連携し、経済的な自立に向けた就労支援を行う。	健康福祉課	就労支援対象者 20人 就職者 13人（就職実績率65%）	就労支援対象者 20人 就職者 10人（就職実績率50%）	R6.2.19現在 就労支援対象者 4人 就職者 3人（75%）	B		
	生活困窮者の相談支援	相談者に対して他機関と連携しながら、生活困窮者自立支援制度の各事業を活用し、支援を行う。	健康福祉課	新規相談件数 45件 他機関へ紹介・各事業活用65%	随時	新規相談件数26件。 各事業活用12件（46%）。	B	相談件数は減少。生活困窮者自立支援制度による事業の活用は46%であったものの、事業を活用しない相談者についても、ハローワークや社協等を紹介し、他機関へつなげた。	
	生活困窮者などの支援会議の運営	生活困窮者等への支援について専門職が連携してより良い支援ができるようにネットワーク作りを行う。	健康福祉課	会議 3回	会議 2回	南区支援会議を1回開催	A		

分野別計画 高齢者介護者支援・健康寿命の延伸

基本目標 高齢者も安心して暮らせるまち

〔評価の指標〕 A. 目標を達成（概ね90%以上） B. ほぼ達成（概ね75%以上） C. 一部達成（概ね50%以上） D. ほとんど実施せず

目標	具体的な取り組み・事業	概要	担当部署	令和4年度(実績)	令和5年度計画	令和5年度実績	評価	コメント・課題等	備考
<b>(1) 高齢者・介護者を見守り支え合うしくみづくり</b>									
	地域全体で高齢者を見守る体制の構築	ふれあい・いきいきネットワーク事業や配食サービスを通じて、地域住民による高齢者への見守り活動を推進・支援する。	健康福祉課 社会福祉協議会	ふれあい・いきいきネットワーク事業 活動団体数 3団体 配食サービス利用者数 36人 (旧白根17人、味方・月湯19人)	ふれあい・いきいきネットワーク事業の推進 配食サービス利用者の定期的な安否確認	ふれあい・いきいきネットワーク事業 活動団体数 1団体 配食サービス利用者数 39人 (旧白根20人、味方・月湯19人)	C	下茨自治会がふれあい・いきいきネットワーク事業を通じて地域の見守り活動を実施。今年度は事業の利用はない他2団体についても、引き続き見守り活動に取り組まれている。	
	支え合いのしくみづくりの深化・推進	地域住民同士による支え合い・助け合いの活動を支援する。	健康福祉課 社会福祉協議会 支え合いのしくみづくり会議及び推進員	地域の茶の間新設数 2か所 (週1・月1開催 各1か所) 区、圏域会議開催回数 17回 南区地域づくりフォーラムとして開催 参加者数 133人 (会場：113人 オンライン：20人)	地域の茶の間の新設または開催回数の増などの活動推進 区、圏域のしくみづくり会議の開催 支え合いのしくみづくりフォーラムの開催 300人	地域の茶の間新設数 2か所 (月1開催 2か所) 区、圏域会議開催回数 14回 南区地域づくりフォーラムとして開催 参加者数 172人 (会場のみ。オンラインなし)	A	南区地域づくりフォーラムの参加者が、オンライン参加者を含む前年度の実績を40人近く上回った。 その他、区だよりで支え合いのしくみづくりの特集記事を掲載し、積極的に情報発信を行った。	
	高齢者の総合相談窓口「地域包括支援センター」の周知	高齢者・介護者への支援体制を周知する。	健康福祉課 地域包括支援センター	区だよりに連載記事を掲載 出張相談を計17回開催し、併せて周知用チラシを配布	区だより連載記事の継続 出張相談の開催 各包括平均4回以上	区だよりにより月1回記事掲載 出張相談 3包括合同で7回開催	A	3包括が協力して出張相談を開催。地域包括支援センターの認知度向上に努めた。	
	介護者の支援	圏域ごとに介護教室を開催する。	健康福祉課	介護教室は中止（3年連続の中止）	今年度から「認知症の理解を深め、介護者を支える地域づくり」の項目に統合				
	地域ケア会議を活用した関係機関のネットワーク構築	区及び圏域ごとのケア会議を開催する。	健康福祉課 地域包括支援センター	各ケア会議の開催実績 区 0回 圏域 3回 個別 4回	各ケア会議の開催実績 区 1回 圏域 3回	各ケア会議の開催実績 区 1回 圏域 4回 個別 15回	A	3包括が多くのケースでケア会議を開催。関係者間で役割を分担しながら、問題の解決に当たった。	
<b>(2) 認知症対策と在宅医療に対する理解の推進</b>									
	地域全体で高齢者を見守る体制の構築（再掲）	ふれあい・いきいきネットワーク事業や配食サービスを通じて、地域住民による高齢者への見守り活動を推進・支援する。	健康福祉課 社会福祉協議会	ふれあい・いきいきネットワーク事業 活動団体数 3団体 配食サービス利用者数 36人 (旧白根17人、味方・月湯19人)	ふれあい・いきいきネットワーク事業の推進 配食サービス利用者の定期的な安否確認	ふれあい・いきいきネットワーク事業 活動団体数 1団体 配食サービス利用者数 39人 (旧白根20人、味方・月湯19人)	C	下茨自治会がふれあい・いきいきネットワーク事業を通じて地域の見守り活動を実施。今年度は事業の利用はない他2団体についても、引き続き見守り活動に取り組まれている。	
	地域ケア会議を活用した関係機関のネットワーク構築（再掲）	区及び圏域ごとのケア会議を開催する。	健康福祉課 地域包括支援センター	各ケア会議の開催実績 区 0回 圏域 3回 個別 4回	各ケア会議の開催実績 区 1回 圏域 3回	各ケア会議の開催実績 区 1回 圏域 4回 個別 15回	A	3包括が多くのケースでケア会議を開催。関係者間で役割を分担しながら、問題の解決に当たった。	
	認知症の理解を深め、介護者を支える地域づくり	認知症の正しい知識の普及・啓発及び認知症高齢者やその介護者に対して見守り支援を行う。	健康福祉課 地域包括支援センター NPO法人	【認知症カフェ】 区だより掲載回数 11回 延べ参加者数 224人 認知症サポーター養成講座実績 4回 89人	認知症カフェ周知のための区だよりへの定期掲載 認知症をテーマとする関係者会議の開催	区だよりに掲載回数11回 ほか、認知症の特集記事を掲載 認知症をテーマに区のケア会議を開催 認知症サポーターステップアップ講座を開催	A	1年を通じて認知症に関する様々な取り組みを行った。認知症カフェの取り組みが評価され、認知症サポーターステップアップ講座の開催につながることができた。	
	認知症予防出前講座の開催	認知症予防について研修を受けた運動普及推進委員が、地域の茶の間等で出前講座を開催する。	健康福祉課	1回 20人	認知症予防出前講座の実施 前年度以上	3会場で16回開催 (参加者数180人)	A	出前講座という名称での開催ではなかったが、同種のイベントとして目標を大きく上回る実績を収めることができた。	
	在宅医療の普及・啓発	保健医療福祉の関係機関と共催し、在宅医療について啓発するための講演会を開催する。	健康福祉課	講演会 1回 173人 (会場とオンラインで開催)	講演会 1回 300人	講演会 1回 196人 (会場：115人、オンライン：81人)	B	計画の300人には及ばなかったものの、昨年度の実績は上回ったことを評価した。	
<b>(3) 健康寿命の延伸</b>									

分野別計画 高齢者介護者支援・健康寿命の延伸

基本目標 高齢者も安心して暮らせるまち

〔評価の指標〕 A. 目標を達成（概ね90%以上） B. ほぼ達成（概ね75%以上） C. 一部達成（概ね50%以上） D. ほとんど実施せず

目標	具体的な取り組み・事業	概要	担当部署	令和4年度(実績)	令和5年度計画	令和5年度実績	評価	コメント・課題等	備考
健康寿命延伸に向けた取り組みの実施	特定健診とがん検診が一緒に受けられるミニドック型集団健診を実施する。		健康福祉課	白根健康福祉センターで10月28・29日および11月1日の3日間実施 受診者157人	会場を白根健康福祉センターに集約し3日間実施 300人 周知をコミ協に委託	白根健康福祉センターで10月26・27・31日の3日間実施 受診者152人	B	3年未受診者を対象にミニドック型集団健診を実施した。受診者数は昨年度より減少したが、対象者数からみた受診者の割合は昨年度から微増であったため評価した。	[R4年度] 対象者数：3,371人 受診者の割合：4.66% [R5年度] 対象者数：3,047人 受診者の割合：4.99%
	誰もが取り組みやすい「はかるう体重！あるこう南区！大作戦」を実施する。		健康福祉課	カード配布 9,610枚 カード提出 640枚	カード配布 10,000枚 カード提出 1,000枚 カードの内容を南区の健康課題解決に向けた項目に一部改訂	カード配布 9,891枚 カード提出 716枚	B	カード配布枚数はほぼ計画通りにできたが、カード提出は目標に及ばなかった。	
	運動や食事など各分野の健康づくり講座を実施する。		健康福祉課	免疫カアップ講座 1回6人 ウォーキング講座 3回18人 幼児を対象とした食育講座 8回231人 糖尿病予防相談会 7回25人	免疫カアップ講座 1回 ウォーキング講座 3回 幼児を対象とした食育講座 8回 糖尿病予防相談会 6回	免疫カアップ講座 1回7人 ウォーキング講座 3回45人（見込み） 幼児を対象とした食育講座 8回245人（見込み） 糖尿病予防相談会 6回24人（見込み）	A	各種講座とも計画通りに実施できた。	
地区の健康づくり活動の推進	各地区の状況に合わせた活動を通し健康づくりに関する周知啓発を行う。		健康福祉課	5地区保健会のうち3地区保健会で事業実施	健康づくりに関する健康教育の実施 各地区（コミ協単位）1回以上	フレイル予防や季節に合わせた健康教育を25回実施	A	ほぼ全地区で1回以上実施できた。なお、白根保健生活協同組合と連携しながら健康づくり活動を実施している地区もあるため、全地区での健康づくりは推進できていると考える。	

分野別計画 地域づくり

基本目標 私たちが支えあい、助けあうまち

〔評価の指標〕 A. 目標を達成（概ね90%以上） B. ほぼ達成（概ね75%以上） C. 一部達成（概ね50%以上） D. ほとんど実施せず

目標	具体的な取り組み・事業	概要	担当部署	令和4年度(実績)	令和5年度計画	令和5年度実績	評価	コメント・課題等	備考
<b>(1) 地域のボランティアや福祉活動の情報発信と活動支援</b>									
	白根健康福祉センターをボランティア活動の拠点として活用	拠点利用するための情報提供を、ボランティア情報誌への掲載やボランティア相談を受ける中で随時行う。	社会福祉協議会	相談随時 情報誌掲載1回	相談随時	相談随時	A		
	ボランティア情報誌の発行	災害ボランティアセンターや福祉教育、ボランティア・市民活動に関する情報誌を発行する。	社会福祉協議会	2回 (うち1回は社協だよりとの合併号による全戸配布)	2回 (うち1回は社協だよりとの合併号による全戸配布)	2回 (うち1回は社協だよりとの合併号による全戸配布)	A		
	ボランティアの情報集約とネットワーク化	ボランティア・市民活動センター運営委員会を開催し、情報集約とネットワーク化の基盤づくりを進める。	社会福祉協議会	2回	2回	2回	A		
	ボランティア養成講座の開催と活動の場の紹介	受援力を強化するボランティア養成講座等を開催することで、活動の場を広げ、その場を紹介する。	社会福祉協議会	3回	4回	3回	B	ボランティア活動の基盤となる自身の健康と南区民の健康増進を牽引する「しゃっきり隊結成講座」を開催した。ひきこもりを学ぶ講座の開催でひきこもりの方の活躍の場の在り方を考えた	
	総合的な学習の時間をはじめとした福祉教育の充実	体験する福祉教育に加え、当事者やボランティアに協力いただき、「ともに生きる」ための福祉教育の充実を図る。	社会福祉協議会	41回	30回	38回	A	地域の方々（大通地区老人会）を講師に迎え、ポッチャ体験を実施できた。大通コミ協健康福祉部会の主催で、大通小学校で行っている福祉教育を地域の方に体験していただいた。	
	ボランティア交流会の実施	モチベーションのアップや活動者同士の情報交換のための交流会を開催する。	社会福祉協議会	2回	2回	2回	A	ボランティア交流会の目的を健康獲得とし、毎年テーマ決めて実施している。R4は「運動」、R5は「食事」とした。	
	ボランティア活動支援	活動に伴う相談支援、活動を安定的に行うための助成金申請の支援を行う。	社会福祉協議会	活動支援 個人20名、1団体 助成金申請 1団体 DVD作成 1媒体	活動支援 3団体 助成金申請 2団体	活躍の場づくり 6件 助成金申請 1団体	A	活躍の場づくりとして、しゃっきり隊のサロン等派遣（3件）、西区災害ボラセンへの茶の間の炊き出しコーディネート、よつば学園のために音声訳絵本作成サポートの調整等行った。	
	災害ボランティアの育成	災害ボランティアセンター設置訓練及び地域で開催する防災学習会を開催する。	社会福祉協議会	訓練 1回 学習会 4回 災害ボラセン検討委員会5回 県北災害ボランティアバス運行1回	訓練 1回 学習会 8回 災害ボラセン検討委員会6回	訓練 1回 学習会 4回 災害ボラセン検討委員会7回 西区災害ボラセン対応：防災士、白根JC、ボランティア、職員	A		
<b>(2) 地域の茶の間・ふれあいきいきサロン活動の支援</b>									
	地域の茶の間の交流会の開催	地域の茶の間など運営団体同士で情報交換し、課題の解決につなぎ、また、運営者のモチベーションの維持にもつなげるため、交流会を開催する。	社会福祉協議会	1回	1回	1回	A	ボランティア・サロン・元気力アップサポーター交流会を開催し、今年度は「食」をテーマとし南区役所及び食推、ボランティアグループより協力をしてもらった。	
	地域の茶の間の運営のための研修会の開催	地域の茶の間などの運営に役立つ内容や事務手続きに関する研修会等を開催する。	社会福祉協議会	相談会 1回 研修会 1回	相談会1回 申請様式など変更など必要に応じて研修会を開催	相談会1回 3～4月に3日間程度予定	A		
	地域の茶の間の活動紹介や内容メニューの冊子作成	支え合いのしくみづくり推進員と協働で社会資源ファイル（冊子）を作成する。	社会福祉協議会	1回（ホームページ上の検索可能な社会資源ファイルを作成中）	ホームページ上の検索システムの社会資源の更新	1回 検索システムの更新	A		
	地域の茶の間の立ち上げ支援	身近な場所で地域の特性にあった地域の茶の間などが開催できるよう、地域住民による立ち上げ支援を行う。	社会福祉協議会	3団体	2団体	3団体	A	新飯田巡回茶の間、大通1丁目大人クラブ、大通こども食堂もくの立ち上げ支援	
	地域の茶の間の世代間交流会の開催	平時からの顔の見える関係づくりのために、世代間での交流会を推進する。	社会福祉協議会	地域の茶の間2か所 地区社協事業11回	5箇所	10箇所	A	新飯田2件、茨曾根、小林、月潟2件、吉江、大郷、鷺巻、大通	

分野別計画 地域づくり

基本目標 私たちが支えあい、助けあうまち

〔評価の指標〕 A. 目標を達成（概ね90%以上） B. ほぼ達成（概ね75%以上） C. 一部達成（概ね50%以上） D. ほとんど実施せず

目標	具体的な取り組み・事業	概要	担当部署	令和4年度(実績)	令和5年度計画	令和5年度実績	評価	コメント・課題等	備考
	関係機関と連携した地域の茶の間の支援	地域の茶の間などからの相談に対応するとともに、共有する個別課題を地域課題と捉え、地域住民や関係機関と共に解決を図る。	社会福祉協議会	2回	個別課題は、関係機関につなげ、地域課題については、講座の開催や関係機関とともに検討する。	個別の対応1件	C	おやしレンタルの情報提供	
	地域の茶の間への移動支援の検討	地域の茶の間などに参加するための移動について必要な支援を検討する。	社会福祉協議会	勉強会 1回	移動支援が必要という声があった地域で検討を進める。	実施なし	D		
<b>(3) 個別・地域課題の解決に向けた取り組み</b>									
	ひきこもりに関する講座や家族の居場所、関係機関連絡会などの開催	新潟市ひきこもり相談支援センターと連絡会を共催し、ひきこもりに関する相談状況を関係機関と共有し、連携体制を整える。また、ひきこもり当事者を抱える「家族の居場所」を開催し、日頃抱える家族の思いを共有し、当事者からの体験談を聞くことにより、家族の心の安定を図れるよう家族の居場所を開催する。	社会福祉協議会	連絡会 1回 家族の居場所 9回 本人の居場所 8回 (R5.2月現在)	連絡会 1回 家族の居場所 12回 本人の居場所 12回	連絡会 1回 家族の居場所 10回 本人の居場所 10回 (R6.1月現在)	A	8月開催の福祉教育講座参加者より当事者支援ボランティアとして2名が登録。11月開催の当事者の居場所からボランティアとして参加してくださった。ひきこもり支援連絡会では、家族の居場所参加者のケースを事例として検討し、専門職からアドバイスをいただいた。	
	買い物など移動支援の検討	南区の移動や外出に関する課題に対して必要な支援を検討する。	社会福祉協議会	情報交換会 1回	地域の状況により必要な場合開催	1回 3/15開催予定 生活支援サービスサミット	A	買い物や移動に関する支援だけでなく、生活支援サービス運営団体と、立ち上げの検討、関心のある地区とで情報交換会をおこなった。	
	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）相談体制の充実	関係機関との連携を強化して相談体制の充実を図る。また、個別訪問等を重ねる中で信頼関係を構築し、課題の整理や解決に向けた取り組みを丁寧に行う。	社会福祉協議会	個別ケース検討会議適宜 ひとり親世帯及び生活困窮者世帯への食料支援 3回	個別ケース検討会議適宜 ひとり親世帯及び生活困窮者世帯への食料支援 3回	個別ケース検討会議適宜 ひとり親世帯及び生活困窮者世帯への食料支援 2回	A	ひとり親世帯及び生活困窮者世帯への食料相談支援は、新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行したこと、団体や企業からの理解も広まり、活動に対し協力をえることができていることから、社協が主となる開催から、バックアップできる体制へと移行していく必要がある。	
<b>(4) 避難行動要支援者に対する支援の充実</b>									
	避難行動要支援者名簿と登録対象者の確認	自治会などに内容確認の協力をいただき、定期的に避難行動要支援者名簿の更新を行う。	健康福祉課 地域総務課	2回	2回	2回	A	システムの不具合により、6月更新が9月に、12月更新が2月にずれ込んでしまったが、民生委員の皆様から協力をいただき、年2回の名簿更新を行うことができた。	
	地域の避難行動要支援者登録対象者への意識付け	民生児童委員から協力をいただき、災害時に自力で避難できない方を対象に戸別訪問し、避難行動要支援者支援制度の周知や登録を図る。また、区だよりなどで同制度について掲載する。	健康福祉課 地域総務課	戸別訪問 1回 区だよりなどの掲載2回	戸別訪問 1回 区だよりなどの掲載 2回	戸別訪問 1回 区だよりなどの掲載 2回	A	区だよりなどの掲載2回 ・4月3日→自主防災会へ文書で訓練実施のお願い ・6月18日→区だより 民生委員による個別訪問1回	
	自主防災訓練を通しての要支援者支援訓練の実施	自主防災訓練における要支援者支援訓練の実施を推進します。	地域総務課	実施率 3割弱	実施率 3割以上	実施率 3割以上	A	7組織/23組織 30.4%	